

河内長野市埋蔵文化財調査報告書XII

野間里遺跡

向野遺跡

1996年3月

河内長野市教育委員会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。この為、市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波が押し寄せて来ています。この開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

このような状況の中で、遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、更には未来の市民へ伝えていく事は、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市においては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達のメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

平成8年3月

河内長野市教育委員会
教育長 中尾謙二

例　　言

1. 本報告書は平成2年度に実施した野間里遺跡、平成3年度に実施した向野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査費については原因者が負担したが、本報告書の印刷費については河内長野市教育委員会が負担した。
3. 調査は、本市教育委員会社会教育課文化財保護係尾谷雅彦を担当者として実施した。
4. 調査及び本書の執筆は尾谷が行い、編集は杉本祐子が補佐した。本書の文責は尾谷が負うものである。
5. 写真撮影は遺構は尾谷、遺物は中西和子が行った。
6. 発掘調査及び内業整理については以下の参加を得た。(敬称略)

池田武・今西(杉山)和良・嘉悦真紀子・喜多順子・楠木理恵・久保八重子・古島亮介・小谷陽子・小森光・佐々木恵里・重野真紀・甚口博美・鈴木(明地)奈緒美・鈴木雅子・杉本(中村)清美・高田加容子・田川富子・福永(田中)美千代・田中良明・田村知子・辻野秀之・中尾智行・中田文・中野雅美・中村嘉彦・林和宏・坂東正法・東田幸子・東原美佳・平井令子・福島里浦・藤井美佐子・古井晶子・古池陽子・桥本裕子・松尾和代・松村佳映・三井義勝・牟田口京子・山本有佳子・結城(阪本)桂子

7. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の協力、指導を得た。記して感謝する。
(敬称略)

栗田薰(富田林市教育委員会)・株式会社島田組・向野町会

8. 本調査については、写真・実測図等の記録及びカラースライドを作成した。また、出土遺物については市教育委員会で保管し、一部は市立郷土資料館で展示している。広く一般の方々に利用されることを希望するものである。

凡 例

1. 本報告書に掲載されている標高は T P を基準としている。
2. 土色は、新版標準土色帖1990年度版による。
3. 平面測量は国家座標第VI系による 5 m メッシュを基に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 遺構実測図の縮尺率は、1/30・1/40・1/60・1/80・1/100・1/300とした。
6. 本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。

S B……掘立柱建物 S C……竪状遺構 S D……溝 S E……井戸
S K……土坑 S L……埋甕遺構 S P……遺物出土ピット S W……石組遺構

7. 遺物実測図の縮尺率は、土器1/4を基準としているが、遺物の状況により縮尺は変えている。
8. 瓦器・瓦質土器・陶磁器の断面は黒塗り、土師器・土師質土器・黒色土器の断面は白抜きである。又、黒色土器の黒色部分にはスクリーントーンを付した。
9. 遺物番号と写真図版の番号とは一致するようにした。

目 次

序 文

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の結果	5
第1節 野間里遺跡 (NMR90-1)	5
1 概略	5
2 層序	6
3 遺構と遺物	6
4 まとめ	9
第2節 向野遺跡 (MKN91-1)	10
1 概略	10
2 層序	11
3 遺構と遺物	11
4 まとめ	15

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)	2
第3図 NMR 調査区位置図 (1/5000)	5
第4図 NMR 遺構配置図 (1/300)	5
第5図 NMR 東壁上層断面実測図 (1/60)	6
第6図 NMR S B 1 遺構実測図 (1/60)	7
第7図 NMR S B 2 遺構実測図 (1/60)	7
第8図 NMR S B 3 遺構実測図 (1/60)	8
第9図 NMR S D 1 出土遺物実測図	8
第10図 NMR S D 1 遺構断面実測図 (1/40)	8
第11図 NMR S P 1 出土遺物実測図	9
第12図 NMR 包含層出土遺物実測図	9
第13図 MKN 調査区位置図 (1/5000)	10
第14図 MKN 遺構配置図 (1/100)	10
第15図 MKN 東壁土層断面実測図 (1/60)	11
第16図 MKN S B 1 遺構実測図 (1/80)	11
第17図 MKN S C 1 遺構断面実測図 (1/40)	12
第18図 MKN S E 1 出土遺物実測図	12
第19図 MKN S K 1 ~ 5 出土遺物実測図	13
第20図 MKN S L 1 遺構実測図 (1/30)	13
第21図 MKN S L 1 出土遺物実測図	13
第22図 MKN S P 2 遺構実測図 (1/30)	14
第23図 MKN S P 1 ~ 3 出土遺物実測図	14
第24図 MKN S W 1 出土遺物実測図	15
第25図 MKN 包含層出土遺物実測図	16

表 目 次

第1表 河内長野市遺跡地名表	3
----------------------	---

図 版 目 次

- 図版 1 遺構 NMR 全景(南から)、S B 1・2・3(南西から)
- 図版 2 遺構 NMR S D 1(北東から)
- 遺物 NMR S D 1(1)、S P 1(2)、包含層(3~7)
- 図版 3 遺構 MKN 全景(西から)、S C 1(東から)
- 図版 4 遺構 MKN S E 1(南から)、S L 1(北から)
- 図版 5 遺構 MKN S P 2(東から)、S W 1(東から)
- 図版 6 遺物 MKN S E 1(1~3)、S K 1(5)、S K 2(6)、S K 3(7・9)、
S K 4(4)、S K 5(8)、S L 1(10)、S P 1(13)、S P 2(11)、
S P 3(12)、S W 1(14・22)
- 図版 7 遺物 MKN S W 1(15~21・23・24)、包含層(26・27・29~42)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

本市は近年の著しい人口増加も一段落し、成熟した住宅都市としての様相を呈してきた。しかし、まだまだそれにともなう都市の基盤整備を進めなければならない。このような状況の中で、河内長野市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、このような公共関係の整備も一般的な開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできないものである。教育委員会と都市整備部局は、公共事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについては計画段階からの保存協議を進め、文化財保護と開発の調整に力を注いできた。



第1図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。

遺跡もまた、谷筋毎に分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塙遺跡の4遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器と共に堅穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塙遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺



第2図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)

番号	文化財名稱	種類	時代	番号	文化財名稱	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町	64	椎現城跡	城館	中世
2	河合寺	社寺		(65)	天神社遺跡	社寺	
3	龜心寺	社寺	平安～	(66)	葛城第15經塚	經塚	
4	大師山古墳	古墳	古墳(前期)	67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
5	大師山南古墳	古墳?	古墳?(後期)	68	庚申堂	社寺	
6	大師山遺跡	集落	弥生(後期)	69	石仏城跡	城館	中世
7	興禪寺	社寺		70	佐近城跡	城館	中世
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町	71	旗尾城跡	城館	中世
9	坂穴古墳	古墳	古墳(後期)	72	葛城第16經塚	經塚	
10	長池遺跡群	生產	平安～近世	(73)	葛城第17經塚	經塚	
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良	(74)	葛城第19經塚	經塚	
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良	(75)	御尾城跡	城館	中世
13	延命寺	社寺		(76)	大沢城跡	城館	中世
14	金剛寺	社寺	平安～	(77)	三国山經塚	經塚	
15	日野觀音寺遺跡	社寺		(78)	光庵寺	社寺	
16	地藏寺	社寺	中世	(79)	城子城跡	城館	中世
(17)	岩浦寺	社寺	平安～	80	蟹井瀬神社遺跡	社寺	
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	(81)	川上神社遺跡	社寺	
19	高向遺跡	集落	田石路～中世	82	千代田神社遺跡	社寺	
20	烏帽子形城	城館	中世～近世	83	向野遺跡	難至塚	礪文～室町
21	喜多町遺跡	集落	繩文～中世	84	古野町遺跡	散布地	中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	85	上原北遺跡	散布地	
23	末広窯跡	生產		86	大日寺遺跡	社寺	弥生・中世
24	塙谷遺跡	散布地	繩文～中世	87	高向南遺跡	散布地	縫倉
25	流谷八幡神社	社寺		88	小塙遺跡	集落	繩文～奈良
26	蟹井瀬南遺跡	散布地	中世	89	加塙遺跡	集落	古墳(後期)
27	蟹井瀬北遺跡	散布地	中世	90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世	91	ジョウノマエ遺跡	城館?	中世
29	千早駅南遺跡	散布地	中世	92	仁王山城跡	城館	中世
30	岩瀬豪門寺	墳墓	近世	93	タコラ城跡	城館	中世
31	清水遺跡	散布地	中世	94	岩立城跡	城館	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳		95	上原近世瓦窯	生產	近世
(33)	安村地藏堂跡	社寺	近世	96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
34	灘埋墓	墳墓	近世	97	上田町窯跡	生產	近世
(35)	中村阿彌陀堂跡	社寺	近世	98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
(36)	東の村觀音堂跡	社寺	近世	99	西之山町遺跡	集落	中世
(37)	西の村觀音堂跡	社寺	近世	100	野間里遺跡	集落	平安
38	清水阿彌陀堂跡	社寺	近世	101	鳴尾遺跡	散布地	中世
39	灘尻旁勤堂跡	社寺	近世	102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
(40)	宮ノ下内墓	墳墓	古墳?	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
41	宮山古墳	古墳?	古墳	104	小野塙	墳墓	
42	宮山遺跡	散布地	繩文～中世	(105)	葛城第17經塚	經塚	
43	西代藩陣屋跡	城館		106	豪師堂跡	社寺	中世～
		散布地		107	野作遺跡	集落	中世
44	上原町墓地	鐘倉		108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
45	懸持寺跡	社寺		(109)	鶴原遺跡	散布地	中世
46	乗山遺跡	祭祀	中世～近世	110	法師塙古墳跡	古墳	
47	寺ヶ池遺跡	散布地	繩文	111	山上謙山古墳跡	古墳	
48	上原遺跡	散布地	中世	112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
49	住吉神社遺跡	社寺		113	地福寺跡	社寺	近世
50	高向神社遺跡	社寺	中世	114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
51	宵が原神社遺跡	社寺		115	栄町遺跡	散布地	繩文・古墳
52	膳所瀬州出張所跡	城館	江戸	116	錦町遺跡	散布地	中世
53	双子塚古墳跡	古墳		(117)	太井遺跡	散布地	中世
54	慶子尻遺跡	散布地	繩文～中世	118	錦町北遺跡	集落	弥生・中世
55	河合寺城	城館		119	市町西遺跡	散布地	繩文・中世
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世	120	米町南遺跡	散布地	中世
57	日の谷城跡	城館	室町	121	米町東遺跡	散布地	
58	高木遺跡	散布地	繩文	122	楠町東遺跡	散布地	
59	汐の山城跡	城館	中世	123	汐の宮町南遺跡	散布地	奈良
60	峰山城跡	城館	中世	124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
61	稻荷山城跡	城館	中世	125	神ヶ丘近世墓	墳墓	近世
62	国見城跡	城館	中世	126	増福寺	社寺	中世
63	旗藏城跡	城館	中世	127	三昧城遺跡	難至塚	中世・近世

()は地図範囲外

第1表 河内長野市遺跡地名表

跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳である大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の鳥帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布していた。また、石川の左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、そして左岸の段丘上に近接して小塙遺跡、加塙遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塙遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狹山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されている。

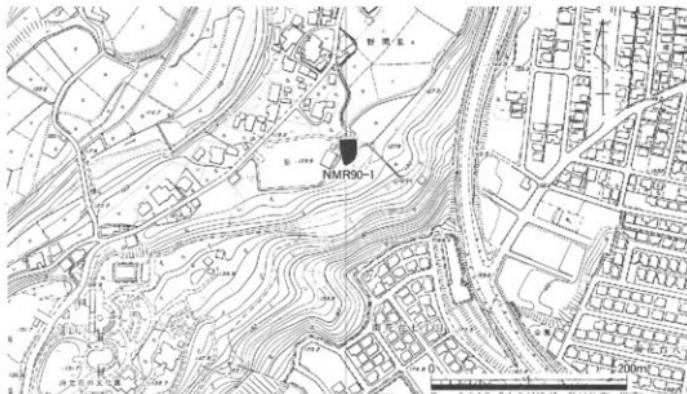
平安時代の遺跡は向野遺跡や天見川沿いの尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11~12世紀の掘立柱建物、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある觀心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末頃から伽藍が整い多くの莊園を有していた。

中世になると交通路が整備され、各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。とくに、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では、合流付近の長野神社遺跡や、喜多町遺跡、更に南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡（寺院跡も含む）、天見駅北方遺跡、蟹井瀬北遺跡、蟹井瀬南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見下ろす尾根上に南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数か所分布している。生産遺跡としては平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに確認数は少ないが在郷瓦師の瓦窯跡も、地元の伝承通り確認されている。

第2章 調査の結果

第1節 野間里遺跡(NMR90-1)



第3図 NMR調査区位置図 (1/5000)

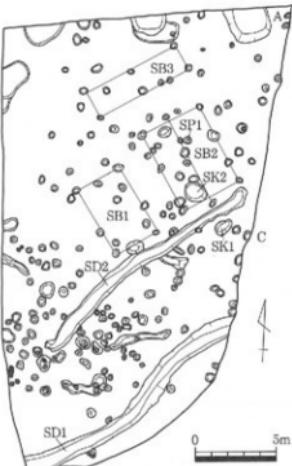
1 概略(第3・4図)

遺跡は高向地内に所在し、岩湧山系から北に派生する丘陵の西側斜面、石川の右岸の河岸段丘上標高約120mに位置する。

調査は市による緑地造成に伴うものであり、本調査前の平成3年1月の試掘調査で新規に発見された遺跡である。調査面積は約500m²で、本調査は平成3年1月22日から3月29日まで実施した。

検出された遺跡は丘陵裾部からやや張り出した微高地状にあり、裾部に近接するほど遺構の埋没深度が深くなっている。これは丘陵の崩壊土が多量に堆積しているためである。

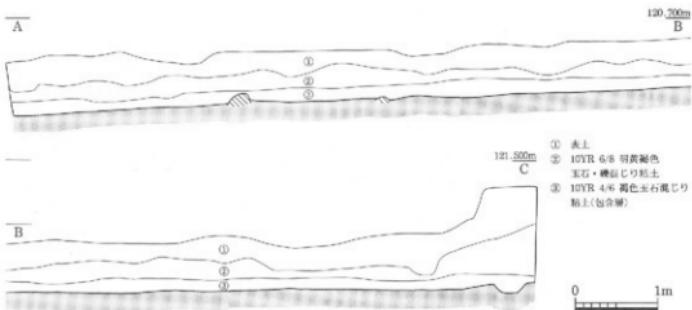
また、遺跡の前面は段丘上に形成された小冲積地が帶状に走っているのが地形図上から読み取れた。



第4図 NMR遺構配置図 (1/300)

2 層序(第5図)

調査区は丘陵の裾部に位置する為、丘陵の崩壊土が裾部に近いほど多量に堆積していた。上層は、層厚が0.4mの表土である。その下層が層厚平均0.2mで裾部で0.7mになる丘陵崩壊土の明黄褐色玉石・礫混じり粘土である。最下層は、層厚0.2mの褐色玉石混じり粘土で包含層となっている。



第5図 NMR東壁土層断面実測図 (1/60)

3 遺構と遺物

(1) 挖立柱建物

〔S B 1〕(第6図、図版1)

調査区の中央で検出された。桁行2間(4.6m)×梁行1間(2.7m)の建物である。桁行方向はN-35°-Wを示す。柱間は桁行が北東側1.7m・2.9m、南西側1.7m・3.0mを測る。柱穴は確認されなかったが、掘方は橢円形で平均長径0.5m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。遺物は確認できなかった。

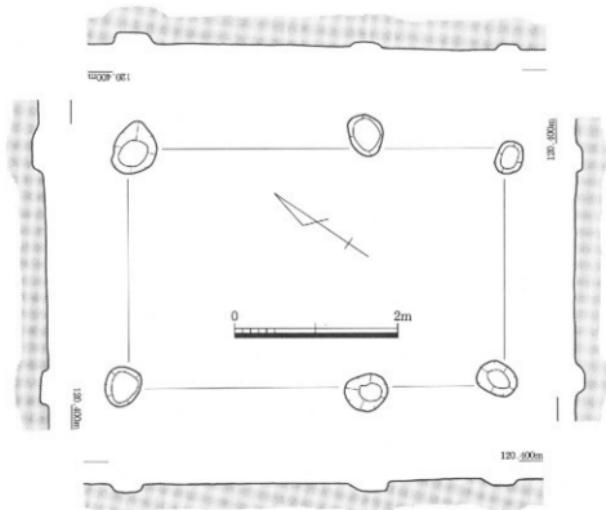
〔S B 2〕(第7図、図版1)

調査区の東側でS B 1の北東側2mに桁行が平行するように検出された。桁行北東側3間(5.2m)、南西側2間(5.3m)×梁行2間(4.0m)の建物である。桁行方向はN-31°-Wを示す。柱間は桁行が北東側1.3m・1.9m・2.0m、南西側2.9m・2.4mを測る。梁行は棟持柱が両端とも外側に0.3m張り出している。柱穴は確認されなかったが、掘方は橢円形で平均長径0.6m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。

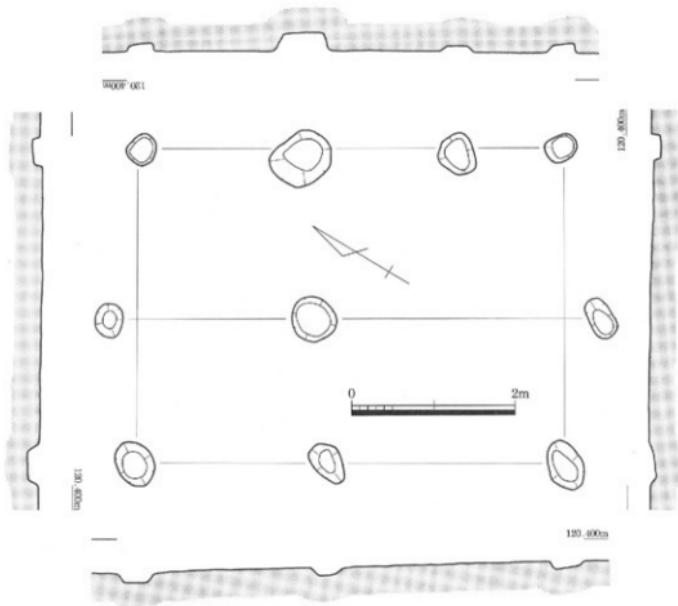
遺物は確認できなかった。

〔S B 3〕(第8図、図版1)

調査区の北側でS B 2の北側2.1mで検出された。桁行2間(6.2m)×梁行1間(1.8m)の建物である。桁行方向はN-57°-Eを示す。柱間は桁行が北西側3.1m、南東側3.1mを測る。柱穴は確認されなかったが、掘方は橢円形で平均長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。



第6図 NMR SB 1遺構実測図 (1/60)



第7図 NMR SB 2遺構実測図 (1/60)

遺物は確認できなかった。

(2) 溝

[SD 1] (第9・10図、図版2)

この溝は調査区の南端をやや蛇行気味に北東から南西に走る。断面形はU字形を呈する。検出長は約15mで、幅1.2m、深さ0.4mを測る。埋土は5層からなり上層から順ににぶい黄褐色炭混じりシルト、オリーブ褐色極細砂混じりシルト、黄褐色玉石混じりシルト、にぶい黄褐色細礫、褐灰色粘土である。

遺物は、土師器の甕(1)が出土している。

[SD 2]

SD 1の北側5mを平行して走る溝で、両端は調査区内で終わっている。検出長は約15mで、幅0.9m、深さは浅く0.3mを測る。

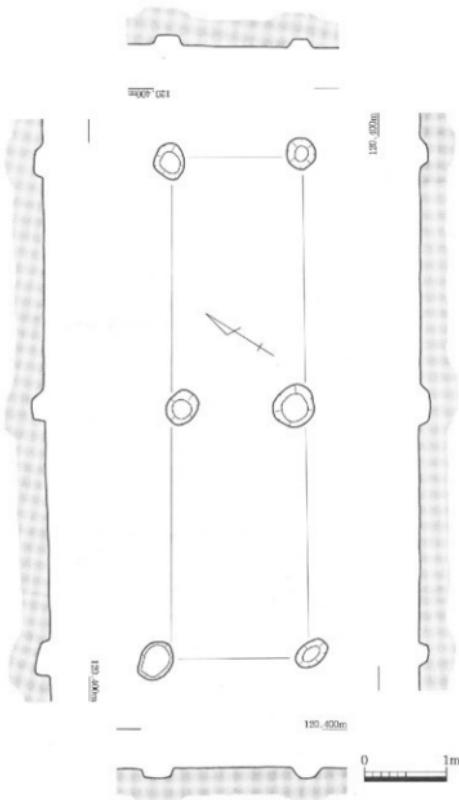
埋土は褐色玉石混じり粘土の一層である。

遺物の出土はなかった。

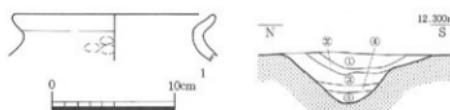
(3) 土坑

[SK 1]

調査区東側でSD 2の南側0.3mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色礫混じりシルトである。主軸方向はN-50°-Eを示す。規模は長径1.2m、短径0.8m、深さ0.2mを測る。



第8図 NMR SB 3 遺構実測図 (1/60)



第9図 NMR SD 1 出土遺物実測図

- ① 10YR 5/3 にぶい黄褐色炭混じりシルト
- ② 2.5T 5/3 オリーブ褐色極細砂混じりシルト
- ③ 10YR 5/6 黄褐色玉石混じりシルト
- ④ 10YR 5/3 にぶい黄褐色細礫
- ⑤ 10YR 5/1 褐灰色粘土

第10図 NMR SD 1
遺構断面実測図 (1/40)

実測可能な遺物は出土しなかった。

[SK2]

調査区中央でSB2の建物内に位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は褐色玉石混じり粘土である。主軸方向はN-61°-Wを示す。規模は長径1.4m、短径1.1m、深さ0.1mを測る。

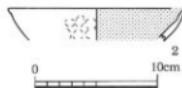
実測可能な遺物は出土しなかった。

(4) 遺物出土ピット

[SP1] (第11図、図版2)

調査区中央でSK2の北側2.5mでSB2の建物内に位置する。平面形は円形を呈する。径0.4m、深さ0.2mを測る。

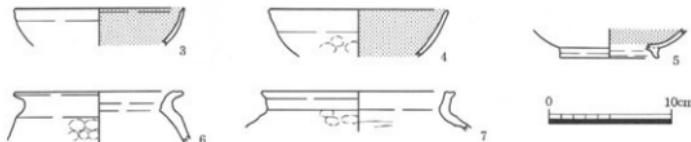
遺物は、黒色土器B類塊(2)が出土している。



第11図 NMR SP1
出土遺物実測図

(5) 包含層(第12図、図版2)

包含層からの出土遺物は少量であり、図示できたのは黒色土器B類塊と土師器壺だけであった。黒色土器B類塊は(3~5)であるが、(3)のみ口縁端部内面に沈線が見られる。壺は口縁部の特徴がそれぞれ相違するが、(6・7)は端部内面が外方向に若干摘み出されている。



第12図 NMR 包含層出土遺物実測図

4まとめ

出土遺物から、検出した遺構は平安時代のものであり、当遺跡はこの当時の小集落の遺跡であることが判明した。集落は南花台の丘陵の裾に営まれた集落で、規模は余り大きくないが、丘陵の裾に沿って広がっていると思われる。丘陵側には溝が掘られ、これが集落の南側を画しているものと思われる。おそらく、前面の段丘上にみられる小低地を耕作地としたものであろう。

第2節 向野遺跡(MKN91-1)

1 概略(第13・14図)

遺跡は向野町にあり、石川の左岸、中位段丘の東側端に近く、標高約95mに位置する。

調査地は、旧東高野街道が南北に通る旧向野の集落内に位置し、江戸中期には建立されていた紫雲寺という廃寺があった場所である。

調査は自治会館の建設に伴うもので調査面積約110m²、調査期間は平成3年4月8日から平成3年4月30日までである。

調査の結果、現地表より-0.2~0.5mで建物跡や石敷の遺構、井戸や竈跡が検出された。大部分の遺構が検出されたのは段丘疊層と一



第13図 MKN調査区位置図 (1/5000)

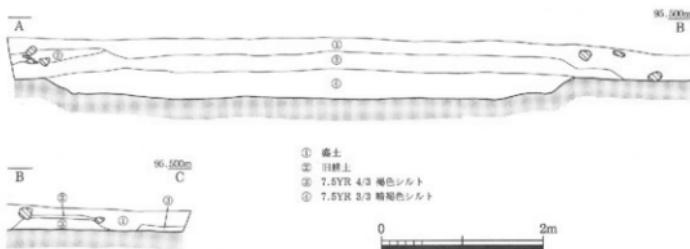


第14図 MKN遺構配置図 (1/100)

部シルト層で形成された地山面からである。

2 層序(第15図)

層序は4層から成る。上層は0.2~0.3mの盛土、その下層に層厚0.1mの旧耕土、そして褐色シルト、暗褐色シルトが堆積している。

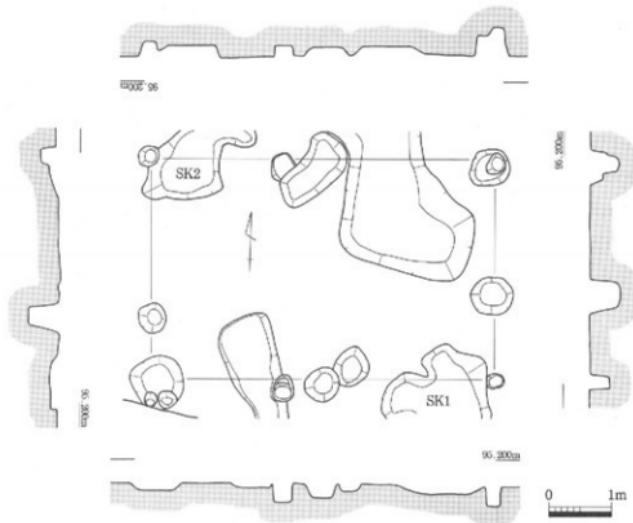


第15図 MKN 東壁土層断面実測図 (1/60)

3 遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

[S B 1] (第16図)



第16図 MKN S B 1 遺構実測図 (1/80)

調査区の南東側で検出された。桁行2間(5.7m)×梁行2間(3.6m)の建物である。桁行方向はN-89°-Eを示す。柱間は桁行が2.9m、梁行は北側から2.6m・1mを測る。柱穴は径0.3m、掘方は梢円形で平均長径0.7m、短径0.6m、深さ0.4mを測る。

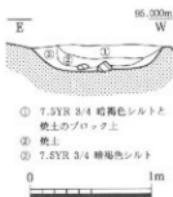
遺物は確認できなかった。

(2) 窟状遺構

〔S C 1〕(第17図、図版3)

S B 1の北側に位置する。平面形は不整形な梢円形を呈する。規模は長径1.3m、短径1.0m、深さ0.2mを測る。遺構内の埋土は上層が暗褐色シルトと焼土のブロック土、中層が焼土、最下層が暗褐色シルトであった。

実測可能な遺物は出土しなかった。



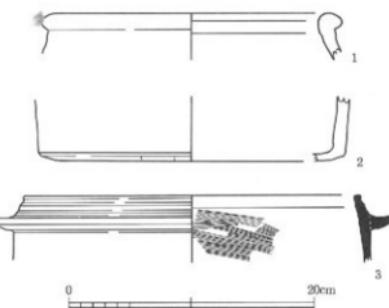
第17図 M K N S C 1
遺構断面実測図 (1/40)

(3) 井戸

〔S E 1〕(第18図、図版4・6)

調査区の北西側で検出した。平面プランは円形を呈する。埋土中には多量の川原石が混入しており、元は石組の井戸であったのが崩壊したようである。規模は直径が1.7m、深さは底部までの掘削不可能であったので2m以上であることしか判明しない。

遺物は土師質甕口縁部(1)、土師質甕底部(2)、瓦質土釜(3)が図示できた。



第18図 M K N S E 1 出土遺物実測図

(4) 土坑

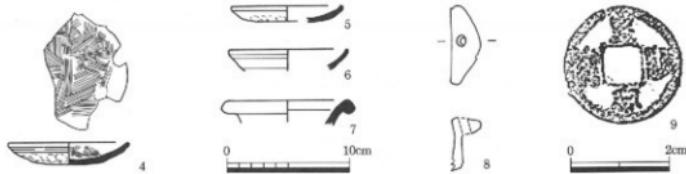
〔S K 1〕(第19図、図版6)

調査区の南東側に位置する。平面形は不定形を呈する。規模は長軸2.2m、短軸1.7m、深さ0.2mを測る。主軸方向はN-15°-Wを示す。遺構内の埋土は褐色炭泥じりシルトの一層である。

遺物は瓦質皿(5)が図示できた。

〔S K 2〕(第19図、図版6)

調査区の中央に位置する。平面形は不定形を呈する。規模は長軸2.2m、短軸1.2m、深



第19図 MKN SK 1~5 出土遺物実測図

さ0.2mを測る。主軸方向はN-45°-Eを示す。遺構内の埋土は褐色炭混じりシルトの一層である。

遺物は白磁皿(6)が図示できた。

〔S K 3〕(第19図、図版6)

調査区の中央に位置し、S C 1 の西側に近接する。平面形は椭円形を呈する。規模は長径0.7m、短径0.5m、深さ0.5mを測る。主軸方向はN-5°-Wを示す。

遺物は青磁壺口縁(7)、輸入銅鏡「皇宋通宝」(9)が図示できた。

〔S K 4〕(第19図、図版6)

調査区の北西側に位置し、S E 1 の北側に近接する。平面形は椭円形を呈する。規模は長径1.4m、短径1.0m、深さ0.3mを測る。主軸方向はN-74°-Eを示す。

遺物は瓦質皿(4)が図示できた。

〔S K 5〕(第19図、図版6)

調査区の北側に位置し、S W 1 の西側に近接し、北側は調査区外に広がる。平面形は椭円形を呈する。規模は長径1.0m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。主軸方向はN-76°-Wを示す。遺構の切り込み面は他の遺構より上層である。全体に火を受けている。

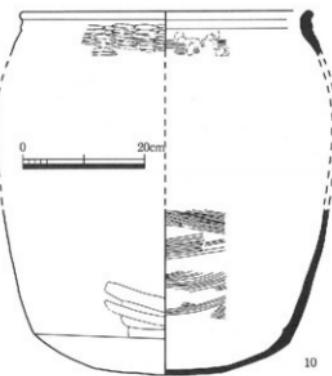
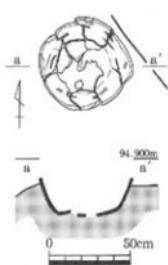
遺物は土師質炮烙把手(8)が図示できた。

(5) 埋甕遺構

〔S L 1〕(第20・21図、図版4・6)

調査区の北側に位置し、S W 1 と重複する。掘方の有無は不明である。残存状態は不良で、甕の口縁と体部下半が残存するのみである。

出土の甕(10)は瓦質である。



第20図 MKN SL1 遺構実測図(1/30) 第21図 MKN S L 1 出土遺物実測図

(6) 遺物出土ピット

[S P 1] (第23図、図版6)

調査区の南西側に位置し、S B 1 の西側に近接する。平面形は円形を呈する。規模は径0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は菊弁の軒丸瓦(13)が図示できた。

[S P 2] (第22・23図、図版5・6)

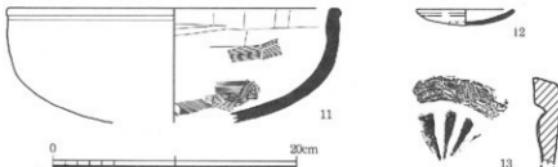
調査区の南側に位置し、S B 1 の中央部に位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.4m、深さ0.1mを測る。瓦質鉢が伏せた状態で出土し、内部に卵の殻が一部残存していた。

遺物は瓦質鉢(11)が図示できた。

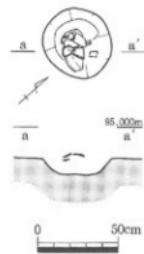
[S P 3] (第23図、図版6)

調査区の南側に位置し、S B 1 の中央部、S P 2 に近接する。平面形は円形を呈する。規模は径0.5m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦質皿(12)が図示できた。



第23図 MKN SP 1~3 出土遺物実測図



第22図 MKN SP 2
遺構実測図 (1/30)

(7) 石組遺構

[S W 1] (第24図、図版5~7)

調査区の北東側で検出した。周囲の石組は削平されていたが、底部に敷かれていた石は残存していた。復元すれば平面形は方形を呈する。周囲の石組は1段で一辺が4.5m程度のものと思われる。主軸方向はほぼ南北を示すものである。

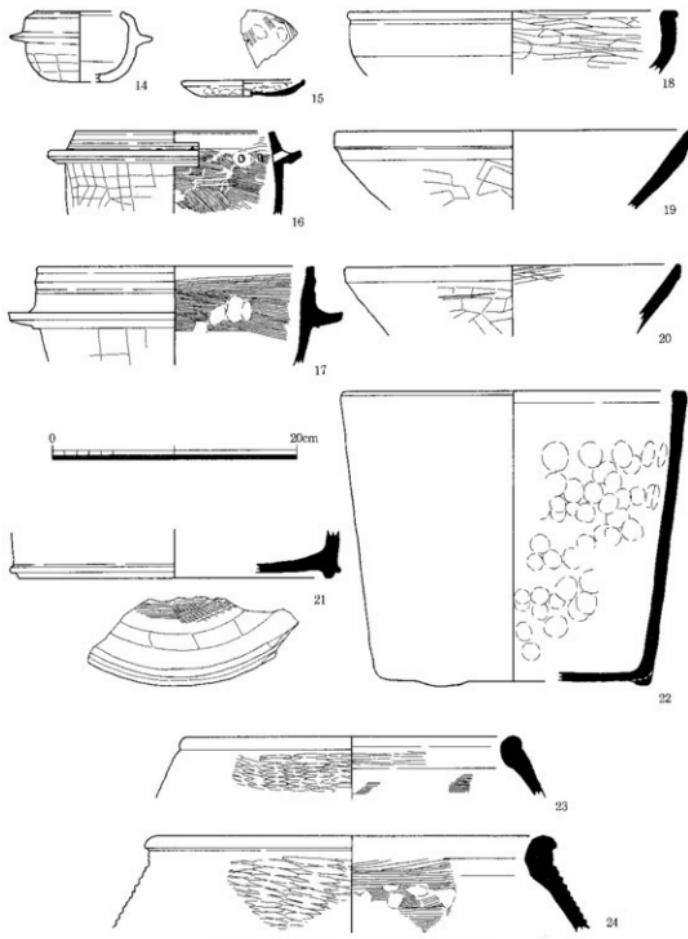
この遺構は、当遺跡の特徴的な遺構で他の調査でも検出されている。おそらく、水まわりの施設のようなものと考えられる。

遺物は土師質のミニチュア形土釜(14)、瓦質の皿(15)、瓦質土釜(16・17)、瓦質鉢(18)、瓦質練鉢(19・20)、瓦質火壺(21・22)、瓦質甕(23・24)が図示できた。

(8) 包含層(第25図、図版7)

層厚約0.2mの薄い褐色シルトが包含層となっている。遺物は中、近世が主体である。

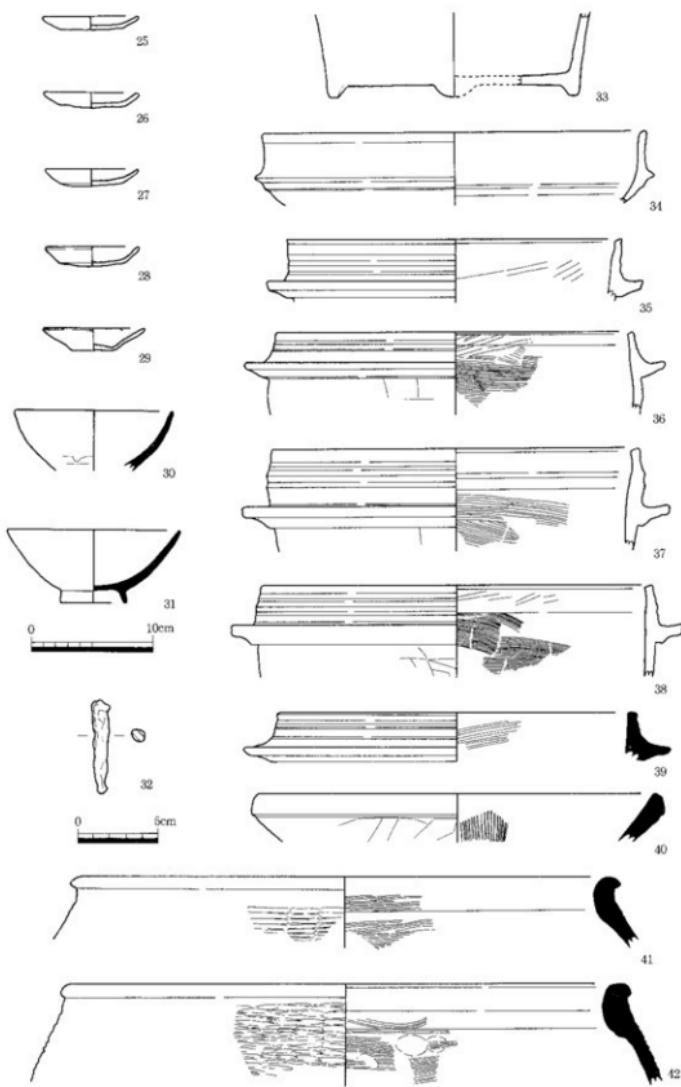
土師質では皿(25~29)、土釜(35~38)、火壺(33)、炮烙(34)が図示できた。瓦質では土釜(39)、擂鉢(40)、甕(41・42)がある。(30・31)は施釉陶器、(32)は鉄釘である。



第24図 MKN SW1 出土遺物実測図

4まとめ

調査地は東高野街道から少し東に入った旧向野の集落内に位置する。時期的には15世紀を中心とする遺構である。遺構の性格は不明であるが、出土遺物に仏具などの寺院的様相は見られず、上層の紫雲寺とは直接関係をもたないようである。既往の調査結果から、向野遺跡のこの時期の集落が現集落と重複することは間違いないようである。



第25図 M K N 包含層出土遺物実測図

図 版

図版1 遺構 野間里遺跡



全景（南から）



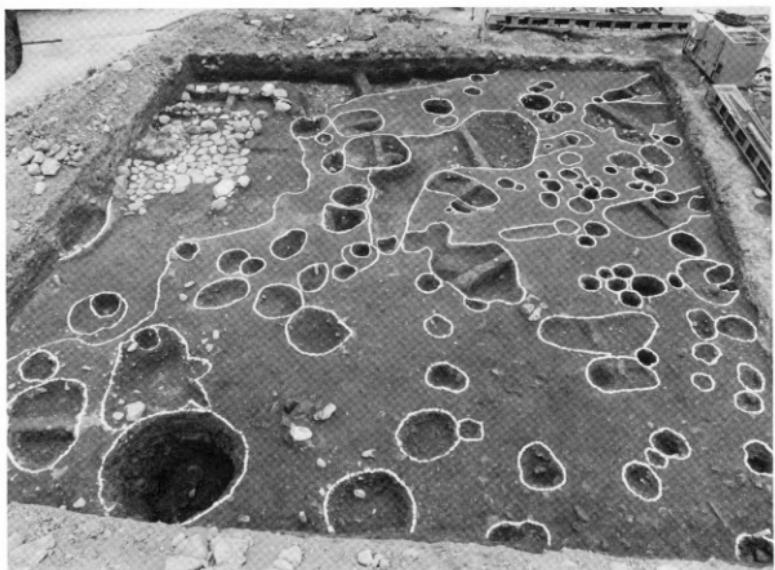
SB 1・2・3（南西から）



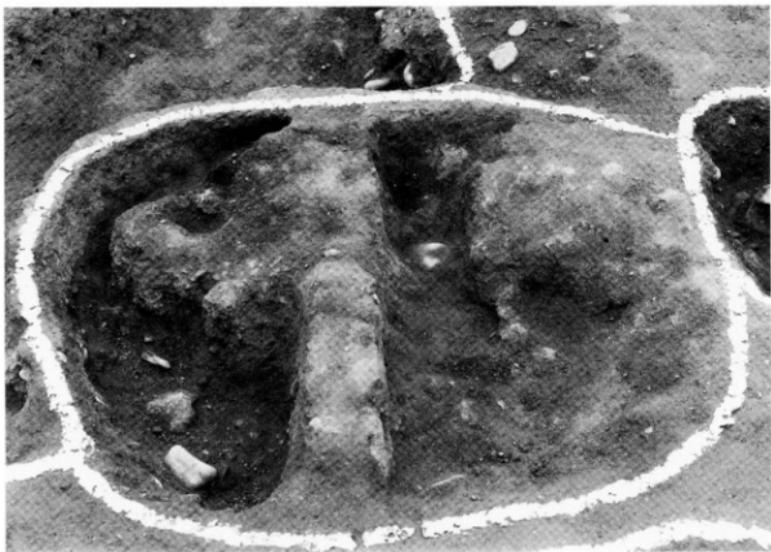
S D 1 (北東から)



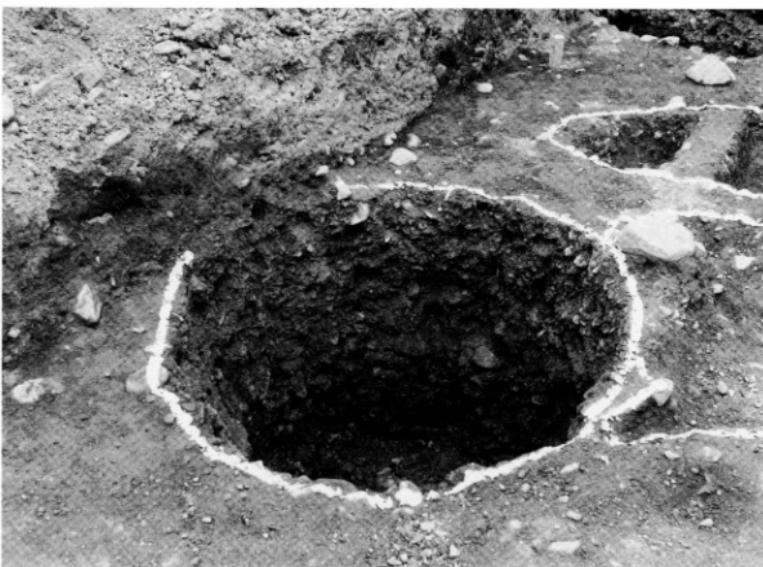
S D 1(1)、S P 1(2)、包含層(3~7)



全景（西から）



S C 1 (東から)



S E 1 (南から)



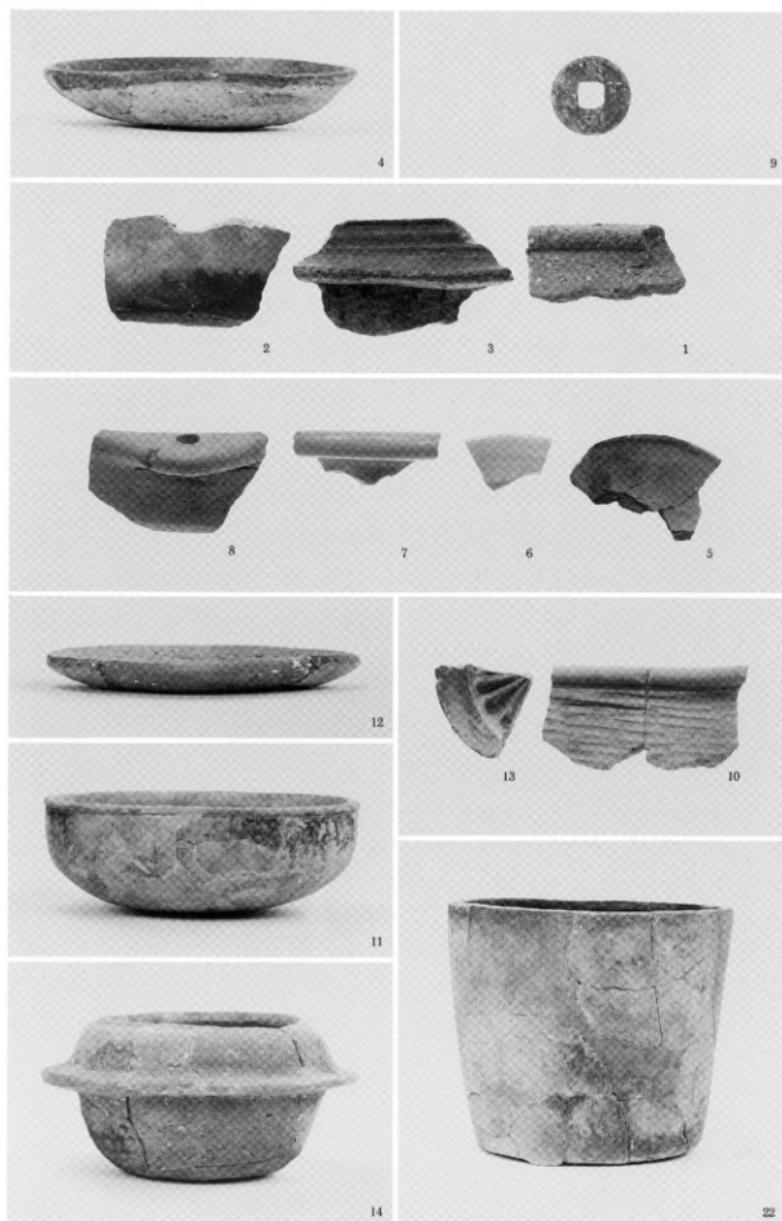
S L 1 (北から)



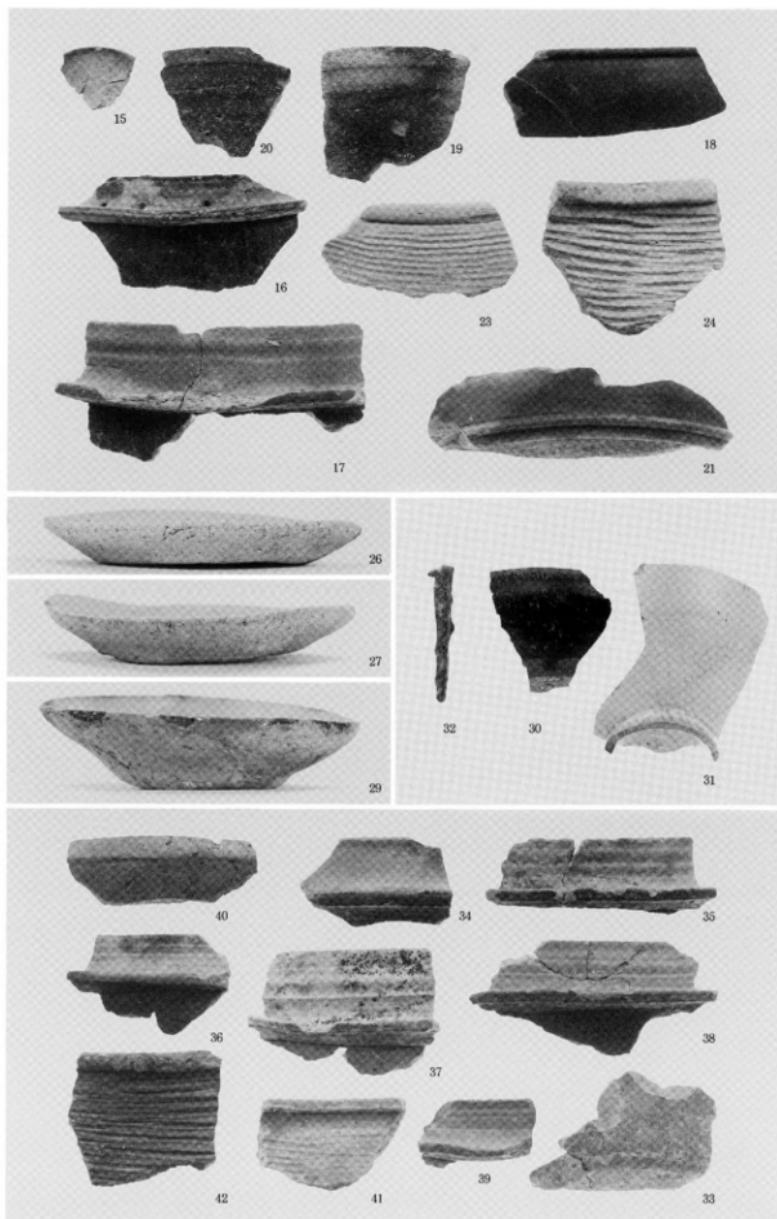
S P 2 (東から)



S W 1 (東から)



S E 1 (1~3), S K 1 (5), S K 2 (6), S K 3 (7・9), S K 4 (4), S K 5 (8), S L 1 (10)
S P 1 (13), S P 2 (11), S P 3 (12), S W 1 (14・22)



S W 1 (15~21・23・24)、包含層 (26・27・29~42)

報告書抄録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	野間里遺跡 向野遺跡
巻次	四
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第27輯
編著者名	尾谷雅彦
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	1996年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
のまりいせき 野間里遺跡	おおさかふかわちながのし 大阪府河内長野市 たこう 高向	府138 河100	34°26'01" 135°33'33" 34°27'18" 135°34'48"	1991.01.22 1991.03.29	1991.04.08 1991.04.30	500m ² 110m ²	緑地造成に伴う 事前調査	自治会館建設に 伴う事前調査
むかのいせき 向野遺跡	おおさかふかわちながのし 大阪府河内長野市 むかののちょう 向野町	府112 河 83	34°27'18" 135°34'48"	1991.04.08 1991.04.30	110m ²			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
			掘立柱建物	溝	土器	黑色土器	
野間里遺跡	集落	平安	3	2	2		
向野遺跡	集落 生産	室町	1	1	1	瓦質土器	
			1	1	5	陶磁器	
			1	1	1	銅錢	
			1				

河内長野市文化財調査報告書第27輯
河内長野市埋蔵文化財調査報告書四

1996年3月31日発行

発 行 大阪府河内長野市原町396-3

河内長野市教育委員会

0721-53-1111

印 刷 中島弘文堂印刷所
